

議事要旨

1 会議名	第2回 吹田市ごみ減量再資源化推進会議
2 次第	1 1月に実施したてまえどりの取組の結果報告 2 吹田市におけるフードドライブの取組報告 3 ごみ減量に向けた取組の意見交換
3 開催日時	令和5年(2023年)2月13日(月) 午後2時00分～午後4時30分
4 開催場所	千里山コミュニティーセンター 多目的ホール及び Zoomの併用開催
5 出席委員	会長 市民団体 6名 事業者 6名 行政 1名 合計 13名
6 発言等の要旨	次第1 1月に実施したてまえどりの取組の結果報告 【事務局】 1月に実施した、てまえどりの取組について、スキーム等の概要を説明 【事業者】 従来から通年で取り組んでいる。今回は、既存のポップ等に追加する方法をとった。また、通年で取り組んでいるため、お客様の行動の変化を確認することはできなかった。 レールポップは、既存のものとサイズ等に差があった。 来年度は、年末年始を避けたい。 【事業者】 2店舗が参加。てまえどりは、お客様に少しずつ受け入れられていると感じた。

キャンペーン期間はもう少し長くても良いと感じた。
キャンペーン資材のサイズは、今回のサイズ以外でも対応可能。来年度は、多様なサイズの資材を用意してほしい。
従業員の理解が進んだので良かった。

【市民団体】

スイングポップが垂れ下がっている様子を確認した。材質等の改善を図りたい。

レールポップ下部の空白を改善したい。

スイングポップをレールに差し込んでいる事業者もあった。レールポップのサイズも改善したい。

大阪府下での取り組み状況を府に確認したところ、堺市と吹田市のみ実施との回答を得た。先進的な取組と言える。

キャンペーン資材の色は、お客さまの目を引くものだった。来年度以降も継続していきたい。

【市民団体】

廃棄量の減少量を数字で示すことができると、市民も取り組みやすくなるのではないか。

【市民団体】

てまえどりを浸透させるため、時間をかけて啓発してほしい。また、地道に活動する必要があると感じている。

【事業者】

エコバッグの時のように、てまえどりも浸透させるためには、時間をかけて啓発すべき。

【事業者】

令和4年8月から、独自でてまえどりの取組を進めている。事業者として、売り場には、すべて同じ賞味期限の商品を提供できるように、商品発注の精度を高めたい。

【市民団体】

最近、てまえどりという言葉を目にするようになった。

大型ショッピングセンターでは、まとめ買いをするお客様

が多い。その場合、賞味期限の近い商品を選ばないお客様が多い。よって、そのような場所では、てまえどりの啓発にはつながらないかもしれない。また、お客様の生活スタイルによってはてまえどりがあてはまらない場合もある。

【事業者】

当社では商品は基本的に売り切っている。
てまえどりがさらに広まってほしい。

【事務局】

次回の実施時期について希望等があれば教えて欲しい。

【事業者】

年未年始をはずしてくれば、いつでも構わない。

【事業者】

通年で取り組んでいるので、いつでも構わない。

【事業者】

通年でも構わない。また、北摂エリア全体で取り組んでみてはどうか。

【事業者】

打診をいただき、その都度検討したい。

【事務局】

意見を踏まえ、来年度の開催時期を検討する。
北摂エリア全体で取り組むことも検討する。

【市民団体】

キャンペーン終了後でも、ポップ等を活用していた事業者があった。

【事務局】

吹田市が主催した、令和4年度のフードドライブの実施状況を説明

【会長】

各事業者の取組状況を教えて欲しい。

【事業者】

通年で実施している。年に数回、集中期間を設けて、取り組んでもいる。直近では、合計12トン集まった。

宅配部門では、お客様に回収するドライバーがわかるように家先等に出していただき、それをドライバーが収集する方法をとっている。

集まったものは、社協やフードバンク関西を通じて、必要とする方にお渡ししている。

【事業者】

2022年度は全店で30トン集まった。

吹田市のチラシに使っている「風土虎息吹（ふうどらいぶ）と集（つどい）」のキャラクターはおもしろい。市職員がキャラクターの格好をして店先に立ってはどうか。

また、チラシの中に集まった提供品の行方を記載した方が、市民にとってよいのではないか。吹田市で循環しているということをPRしてはどうか。

【事業者】

取り組めていない。

【事業者】

フードドライブには取り組めていないが、昨年度から、堺市、大阪市の社協に、賞味期限は残っているが、売場に出せないものや、箱等の破損しているものを提供している。

【事業者】

子ども食堂と契約して食品を提供している店舗もある。吹田市内では取り組めていない。今後、取り組みたい。

【市民団体】

食品を交換できる取組を実施した。食品ロス削減月間である10月に実施した。好評だったため、11月まで延長した。12月中にすべての商品がなくなったので終了した。来年度も取り組みたい。

【市民団体】

「市がフードドライブ事業を行っている。」ということが知られていない。

食品受取場所の3か所（市役所、のびのび、ラコルタ）は気軽に持っていけないので、受取場所を増やしてほしい。

フードドライブの男性キャラクター（風土虎息吹（ふうどどらいぶ））は怖い印象を受ける。

【市民団体】

個人でフードドライブの取組を行っている。食品が集まりすぎたとき、個人だと、受取場所までもっていくのに苦労している。身近なところに、受取場所があると助かる。

次第3 3 ごみ減量に向けた取組の意見交換

【事務局】

各事業者のごみ減量に向けた取組を教えてください。その取組の宣伝方法等もあわせて教えてください。

【事業者】

メーカー、販売店、リサイクル業者と神戸市で、詰め替えパックを詰め替えパックに戻す（水平リサイクル）取組を行っている。回収ボックスは、当社では三宮店に設置した。当初は1か月に1～2kgだったが、現在は5～10kg集まっている。こういう取組を吹田市、大学と連携して取り組みたい。

【市民団体】

余った食品を拠点に持っていくとポイントが付くようにすると、市民にとっても魅力的だと思う。市民、店舗双方にメリ

ットのある方法があるとよい。

【事業者】

恵方巻、クリスマスケーキは予約中心となってきている。また、3年ほど前から、ハーフサイズを主力に展開してきた。このような取り組みから、恵方巻の食品ロスは、減少している。発注数の予測精度も高めたい。

【事業者】

プラ容器の軽量化に取り組んでいる。例えば、パンの包装の中にプラトレーを入れていたが、それをなくした商品がある。食パンの包装に使っている、プラスチックのクロージャー（留め具）をなくす取り組みもはじめている。油分のついていない菓子パンの包材や紙類は、再利用している。

【事業者】

時間をかけて、意識付けすることが大切である。

【事業者】

商品を加工した時に生じる食物残さ（キャベツの芯、果物の皮など）でバイオガス発電をして、ごみ減量に向けて取り組んでいる。1日に12tほどごみを減量することができる。また売電することで設備投資費用を回収できる。

【事業者】

センターで肉や野菜を仕入れ、端材をたい肥化している。食品のトレー交換する（乗せ換え）ときは、そのトレーを捨てていたが、今は捨てずにリサイクルしている。

【市民団体】

新型コロナウイルス感染症の影響により、商品の衛生面を重視し、個別包装の傾向に向かっていると感じる。ごみ減量のためには、過剰包装を断るようすべき。

【市民団体】

小学生・子どもに食品ロス削減に関する教育をすべき。

【市民団体】

市内の小学校4年生はくるくるプラザに見学に来ている。できるだけ分かりやすく説明している。

小学校のクラブ活動に出前講座として参加している。その際は、食品ロスやプラスチックの問題について、クイズ・ゲーム形式をとっている。

【市民団体】

環境教育フェスタのパネル展示で食品ロスに関するクイズを掲示し、117人に回答してもらった。今後もいろいろな機会をとらえて、啓発したい。

【行政】

ライフスタイルを変えるための取り組みが必要と考えている。

次年度のてまえどりキャンペーンは、通年化という意見を踏まえ、事務局にて適切な期間案を検討する。また、広域で取り組むことも検討する。

さらに、幅広い世代との意見交換も必要なため、本会議に学生が参加することも検討する。